

科学研究費助成事業（基盤研究（S））中間評価

課題番号	18H05279	研究期間	平成30(2018)年度 ～令和4(2022)年度
研究課題名	ペア型免疫受容体を介した感染・ 免疫制御機構の解明	研究代表者 (所属・職) (令和2年3月現在)	荒瀬 尚 (大阪大学・微生物病研究所・教授)

【令和2(2020)年度 中間評価結果】

評価		評価基準
	A+	想定を超える研究の進展があり、期待以上の成果が見込まれる
○	A	順調に研究が進展しており、期待どおりの成果が見込まれる
	A-	概ね順調に研究が進展しており、一定の成果が見込まれるが、一部に遅れ等が認められるため、今後努力が必要である
	B	研究が遅れており、今後一層の努力が必要である
	C	研究が遅れ、研究成果が見込まれないため、研究経費の減額又は研究の中止が適当である
<p>(意見等)</p> <p>本研究は、ペア型免疫受容体を中心に、その病原体認識機構や機能、免疫疾患や腫瘍免疫における役割を解析することを目的としている。</p> <p>これまでにいくつかの重要な研究成果が得られている。特に、熱帯熱マラリアが、これまでに報告された抑制化ペア型受容体である LILRB1 や LAIR1 以外にも、多くの活性化及び抑制化ペア型受容体によって認識されるという知見は、マラリアの感染防御機構を考える上で重要である。まだ主要な論文発表には至っていないが、それぞれのテーマに関して鍵となる知見が得られており、今後の進展が期待できる。</p>		